

ーポイントー

- 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実
- 体験活動を生かすなどの指導の充実
- 魅力的な教材の開発や活用
- 言葉を生かし考えを深める工夫
- 情報モラルの問題に留意した指導

(1) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

道徳の時間は、主として学級担任が計画的に進めるものですが、学校や学年として一体的に進めるために、道徳教育推進教師を中心に全教師が協力し合う環境を整えることが大切です。例えば、校長や教頭の参加による指導、他の教職員とのティーム・ティーチングなどの協力的な指導、養護教諭や栄養教諭の協力を得るなどが考えられます。

(2) 体験活動を生かすなどの指導の充実

体験活動を効果的に生かすことによって、道徳的価値の自覚を深める指導が一層充実します。したがって、体験活動を踏まえ、児童生徒が道徳的価値の意味や大切さに気付き、自己の生き方についての考えを深めたり、人間としての生き方についての自覚を深めたりする道徳の時間の要としての役割を重視し、道徳の時間で体験活動そのものを行うのではないことに留意します。

(3) 魅力的な教材の開発や活用

道徳の時間の教材は、児童生徒が道徳的価値の自覚を深めていくための手掛かりとして、とても重要な意味をもっています。先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童生徒が感動を覚えるような魅力的な教材を多様に開発し、その効果的な活用を工夫することが大切です。

(4) 言葉を生かし考えを深める工夫

自分の考えを基に、書いたり話し合ったり討論したりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深めたり、自らの変容に気付いたりして、自らの成長を実感できるようにします。

(5) 情報モラルの問題に留意した指導

道徳の内容との関連を踏まえて、例えば、ネット上のきまりを守れずに引き起こされた出来事などを題材として授業を進めたり、コンピューターによる疑似体験を授業の一部に取り入れたりするなどの指導に留意します。